

授業科目名 (英訳)	健康情報学 Health Informatics					担当者所属 職名・氏名	医学研究科 教授・中山 健夫					
	配当学年	2・3 回生	単位数	2	開講年度 開講期		H27 後期	曜時間	金/2	授業形態	講義	使用言語
<b>【授業の概要・目的】</b>												
<p>健康・医療情報、データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価、情報リテラシー、ヘルスコミュニケーション（リスクコミュニケーション含む）、個人情報保護など情報倫理の課題について講義する。疫学や根拠に基づく医療（Evidence-based medicine: EBM）を基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報、語り・体験などのナラティブ等、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。インターネットによる健康情報の評価に関して、NPO 法人日本インターネット医療協会による eヘルス倫理コード version 2 を利用して実際のウェブサイトの評価・作成の手法を学ぶ。さらに欧米の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップ（2日間）を通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関して体験的理解を深める。</p>												
<b>【到達目標】</b>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・疫学・EBM の知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。</li> <li>・マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。</li> <li>・健康・医療に関する意思決定におけるエビデンスとナラティブの特性を説明できる。</li> <li>・個人の情報処理・認知、コミュニケーションの特性を理解できる。</li> </ul>												
<b>【授業計画と内容】</b>												
<p>【第 1・2 回】 EBM と疫学から見た情報リテラシー入門</p> <p>【第 3・4 回】 インターネットと e-ヘルス</p> <p>【第 5 回】 Public Health Informatics の展開</p> <p>【第 6 回】 ヘルスとリスクのコミュニケーション</p> <p>【第 7 回】 根拠に基づく医療と診療ガイドライン：その課題と可能性</p> <p>【第 8 回】 個人情報保護と情報倫理</p> <p>【第 9・10 回】 MBTI 特別ワークショップ：個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ（開講日・時間注意 初回に提示）</p> <p>【第 11 回】 ナラティブ情報、“ patient-reported outcome ” の意義と可能性</p> <p>【第 12 回】 代替医療と健康情報</p> <p>【第 13 回】 疫学情報から因果関係を考える：発展的な情報リテラシー</p> <p>【第 14・15 回】 主体的に「健康情報」を「コミュニケーション」に活かすために（個別発表）</p>												
<b>【履修要件】</b>												
特になし（疫学の基本知識を持っていることが望ましいが、必須ではない）												
<b>【成績評価の方法・観点及び達成度】</b>												
レポート・発表 コースで学んだ内容を自分の関心・問題意識に照らして咀嚼、習得を試みているか評価												
<b>【教科書】</b>												
印刷資料												
<b>【参考書等】</b>												
中山健夫著 健康・医療の情報を読み解く：健康情報学への招待（丸善書店）												
その他、随時必要に応じて文献を紹介する。												

**〔授業外学習（予習・復習）等〕**

講義内容に応じて、適宜、課題を提示する。

**〔その他（オフィスアワー等）〕**

健康と医療を巡る情報・コミュニケーションに関心のある学生の積極的な聴講・参加を期待しています。  
nakayama.takeo.4a@kyoto-u.ac.jp